



▶ 神道青年全国協議会 ◀ 中央研修会開催(北海道)



第59号

北海道
神道青年協議会
平成26年 3月31日



中央研修会に参加した道神青協会員



平成二十五年度 神道青年全国協議会
中央研修会実行委員会

実行委員長 中村 文彦
(彌彦神社欄宜)

神青協最大の事業と言っても過言でない中央研修会も、北海道が担当するのは今回で四回目となった。

前回は道神青協藤山会長の下、役員の末席として今や神青協顧問の大野さんと会場内を走り回っていた。その時に「十年後は君達が主役だから、しっかり見て覚えておいてね」と言われたものだが、まさかその通りになるとは思いも掛けず、縷々経緯があり結果として実行委員長としての大役を受ける事となった。

まずは実行委員会組織の見直しから着手した。道神青協では副会長が三名なので三部会制となっており、そこに現地会場担当として文月会を独立させて会場の諸々を担当してもらう事にして、委員会組織を四部会制としたのである。そしてこういった大きな場では事務局への負担が非常に大きい為、それを少しでも軽減させたいとも考えていた。

私は実行委員長とは言うものの完全な裏ドラとなり、伊部会長を

トップとし、四名の副委員長(道神青協副会長三名と文月会代表一名)に総務・事業・教化・会場の各部会を運営してもらい、それらの統括を事務局が行う、という組織力を以て実行委員会を回そうと考えたのである。委員会前には、まず部会を開いてもらい、その部会で協議を行った上で委員会を開催し、その委員会で更に意見が出ては激論を交わし何とか決まる、といったことが多かった。上程された議案がそのまま通ったという事はあまりなかったように思う。

私は実行委員長という立場として、伊部会長の意向を確認しながら各部会の役割を決め、指示を出し、全体のタイムスケジュールや進行をできる限り把握するよう、時には報告を求めながらもトラブルがあった際にはその場で指示が出せるよう、日程通りに進行できるように努めたつもりである。ただし、折しも伊部会長は神青協の教化委員長であった為、企画段階での教化関連は伊部会長にかなり甘えてしまったが(笑)



研修会場の様子

講師先生（右から山田吉彦先生、
津川雅彦先生、大高未貴先生）

吉田源彦庁長より修了証の授与



懇親会にて氷彫刻の披露

そして研修会当日を迎える。準備は万端……と言いたところであつたが、やはり抜けがあつたりホテル側との意思疎通も甘かつた部分があつたりで反省点が多かつたのも事実。また当日最大の敵は天候であつた。今回の講師三名は飛行機で千歳空港に降りる事になつてゐたのだが、万一降り立つ事が出来なかつた場合や、更には二時間遅れで別の空港に降りた場合など、最悪の場合をシミュレートするのもなかなか大変なことであり、その動揺を見せまいと必死になつてゐた。結果として講師は三名共無事に到着されたので杞憂に終わったが、その時の安堵感と言つたらこの上なかつた。



記念品(「国を守る」は吉田庁長揮毫 千島桜 名前入り)

今回の参加者が四百四十名で、道内の参加者が百六名であつた。この圧倒的参加率は神青協役員を始め参加者の度肝を抜いたと思う。北海道は一枚岩。先輩方が良く言われることだが、今回改めて実感：いや痛感した。先輩方・役員並びに会員各位：道神青協そして実行委員会そのものが実に多くの仲間を支えられ、多くの仲間と共に大きな事業を完遂できた事を誇りに思うと同時に心からありがたいと思つた次第である。

しかしながら今後は成功点及び反省点を洗い出し、いざまた来る中央研修会主管に向けて資料を残すという作業が残っている。しっかり資料を作り上げ、今後の総会で報告が出来るよう会務に励む次第である。

兎にも角にも、この神青協中央研修会に特段大きな穴を空ける事もなく、無事にやり納める事が出来た事を嬉しく思っている。これは確認や報告を怠らずに各部会が責任を持って仕事をしてくれた証である。言つてしまえば実行委員会とは四つの部会・事務局・一部の統括、それらのメンバーである。そしてこの実行委員会を支えて戴いているのは道神青協の会員であり、道神青協元会員の先輩方なのである。

中央研修会に 参加して

去る三月六日・七日の両日、平成二十五年（2013年）度神道青年全国協議会中央研修会が札幌パークホテルに於いて開催された。

今研修の主題は「国土と国体を守る」である。戦後民主主義の影響により我が国体（国家）が失われつつある。また先人達が守ってきた国土が諸外国に脅かされているために、それぞれの地域の牽引役として、意識喚起を行っていくための学ぶ機会に充てるよう目的としたものである。

第一講では東海大学教授・海洋問題研究家の山田吉彦先生による「日本の海を守る」という演目（御講演）で、「日本の海は領海、排他的経済水域を合計すれば世界で六番目に広く、漁業の管轄、また様々な問題はあるが、資源開発など成功すれば日本は資源大国となる」と説明した。また、尖閣諸島の問題については、「中国の狙いは東シナ海の海底資源と、軍事上の拠点とするため。そのために尖閣諸島の領土の主張をしている。そしてその対策として、国家管理の海洋保護区に設定し中国の

接近を阻止すべきだ」と主張した。また、「北方領土返還の鍵は、海上交通路の航海の安全を日本側が担当する協定を結び、海の返還を求めることである」と述べられた。

第二講では俳優・映画監督をされている津川雅彦先生より「日本の誇り」と題して御講演された。先生の海外の友人の話によれば、海外で起きた台風の災害では略奪や窃盗、配給の奪い合いなどが起きたが、東日本大震災ではそのような事が無く、被災者の方々が整然と列に並んで配給を待つ姿に驚いたようだ。「このような自分の命が危ういときに皆で協力しあう姿は世界を感動させた」と語り、日本人が持つ我慢・忍耐・礼節の素晴らしさを語られた。

初日の講義が終了した後、懇親



南坊城光興神青協会長



受付の様子

会が開催され北海道の地酒や料理が振る舞われた。北海道神社庁吉田庁長を始めとする御来賓の方々や講師の山田先生・大高先生にも御臨席戴き、全国の会員が懇親を深め盛会の内に幕は閉じた。

最終日の第三講ではジャーナリスト・キャスターをされている大高未貴先生による「対日情報戦に備へよ！日本の誇りを取り戻さう」と題して御講演された。従軍慰安婦問題について、「本来強制連行などは無く誰一人日本人を悪く言う者はいなかったが、日本から賠償金を引き出すために捏造された情報を世界に発信している」と述べ、同じ日本人が利用され日本を貶めていると言うことや、朝

日新聞の捏造などが語られ、「捏造された情報による日本人の歴史贖罪意識を払拭しなくては行けない」と述べられた。

講義終了後、閉講式が執り行われ、平成二十五年（2013年）度神道青年全国協議会中央研修会が終了となった。受講生は先人達から受け継いできた日本人としての誇りを益々喚起し、日本の国体・国土を守るため、これから自分達がどのように過ごさなければいけないのかを考えさせられる大変有意義な研修会であったと思う。

次回の中央研修会は和歌山県にて開催予定。

上川神社 権桐宜

松本 直哉



懇親会の様子

札幌支部 青年神職文月会 創立六十五周年記念事業 伊勢研修旅行に参加して

去る三月十二日から十四日に亘り、伊勢研修旅行に参加して参りました。

本旅行は北海道神社庁札幌支部青年神職文月会の創立六十五周年記念事業に伴い、道神青協役員にもお声を戴きまして総勢十五名が参加致しました。

初日は、千歳空港より出発し、中部国際空港に到着後は三台のレンタカーへと分乗して、一路伊勢の地を目指しました。

天候は、良好だが時折吹く風が多少肌寒い中、先ずは二見興玉神社へ参拝。夫婦岩は青空と穏やかな波の中に佇んでおり、久々に伊勢へと来たのだと改めて実感致しました。

その後、神宮職員の方の説明を戴きながらせんぐう館を見学を致しました。



御装束神宝や渡御行列を再現したミニチュア等が展示される中、一際目を惹いたのが外宮正殿の側面部を原寸大に再現し展示されている所で、



間近で見るとの大きさに圧倒されました。その後、外宮を御垣内参拝させて戴いた後は、普段では廻ることの出来ない御板垣の外側から裏手を通り、古殿地を見学させて戴きました。

檜皮屋根の大きな凹みや、千木鯉木をはじめ柱壁の色は、その向こう側に見える新しい御社殿とのコントラストに二十年の歳月と共に改めてその荘厳さを感じる事が出来ました。

夕方には宮町公民館へと場所を移し、この度の式年遷宮に於いて宮町奉曳団を率いてお木曳行事・お白石持ち行事をご奉仕された、平井亮太郎団長様をはじめ青年部の皆様よりご講演を戴きました。先ずは公民館にて解体されていた奉献車を見学し、その後懇親会場に場所を移し、宮町の歴史からお木曳行事・お白石持ち行事などに関してお話を戴きました。五百年以上の歴史を持つ宮町で、遷宮の二十年というサイクルのうち二回しかない奉献車の組み立てや、



中村元会長と平井団長様のご息様のご学友であり実現に至ったもので、ただその行事に参加するだけでは聞くことの出来ない、大変貴重なご講演を戴きました。

その後は懇親会となり、平井団長様をはじめ多くの青年団の方々と共に、時に木遣りのご披露も戴きながら親睦を深めました。

翌日は予報通り天候は芳しくなく、風雨伴う天気となりました。ホテルより内宮へと移動し、宇治橋を渡り御

神域へと向かい、外宮と同様に神宮職員の方のご説明を戴きながら御垣内参拝をさせて戴いた後、前日同様所々で別宮荒祭宮にも参拝し、併せて所管社の御酒殿神・由貴御



木遣り・踊り・お囃子などの伝統を後世へつなぐ事の大変さや、それに伴う費用面でのご苦労等をお聞き致しました。

抑々この研修は、今回の旅行に参加された道神青協

倉にも参拝を致しました。

御神域を離れ、おかげ横丁に移動し、歴史体験館のおかげ座



にて神話映像を観覧。その後は各自おはらい町・おかげ横丁を散策。夫々伊勢名物に舌鼓を打ちました。

その後は伊勢の地を離れ、別宮瀧原宮へ移動し、風雨強い中夫々参拝をし、一路名古屋市へと移動致しました。到着後はようやく雨も上がり、参加者一同にて懇親会を開き、和やかな中遅くまで懇親を深めました。

翌日は前日の天候が嘘のように晴れ渡り、風が強く肌寒い中でありましたが、名古屋城を見学し、その後に熱田神宮を参拝致しました。昼食後、中部国際空港へと向かい、千歳で解散をし、夫々帰路へと就きました。

この研修旅行を通し、大変有意義で貴重な経験をさせて戴きました。これを糧とし今後の神明奉仕、氏子教化活動により一層励んでいくべく心新たに致しました。

その機会を与えて戴きました文月会の皆様に改めて感謝申し上げます。誠に有難う御座いました。

北海道神道青年協議会 理事
興部神社 宮司 中島大輔

平成二十五年度 道神青協会務報告

自 平成二十五年四月一日
至 平成二十六年三月三十一日

四月九日

■道神青協第二十一回・新年度第一回役員会

(於 北海道神社庁)

前田会長・伊部副会長・狩野副会長・三橋副会長・山口事務局長・三橋事務局長・三橋理事・松崎理事・武田理事・枝廣理事・池田理事・常磐井理事・阿部理事・照井理事・手塚理事・飯田理事・長尾理事・丸井理事・芦原理事・北方理事・加藤監事・中島監事・大野参与・中村実行委員長・

【役員予定者】中島淨会員・常磐井典

会員・井上篤会員・瀧川会員・村井一
会員・中島英会員・小島会員・菊池友
会員・勝沼会員・中島徹会員

■平成二十五年度北海道神道青年協議会定例総会

(於 北海道神社庁)

会員数 百六十五名
出席数 六十七名
委任状数七十二通

議件

- 一、平成二十四年度会務報告
- 一、平成二十四年度一般会計歳入歳出決算書承認に関する件
- 一、平成二十四年度事業会計収支計算書承認に関する件
- 一、平成二十四年度積立会収支計算書承認に関する件

関する件

- 一、平成二十四年度財産目録・在庫書籍調査承認に関する件
- 一、平成二十四年度会計監査報告
- 一、役員改選の件
- 一、平成二十五年度活動方針並びに事業計画案に関する件
- 一、平成二十五年度一般会計歳入歳出予算案に関する件
- 一、中央研修会実行委員会に関する件
- 一、道神青協創立六十五周年記念事業計画案に関する件
- 一、道神青協創立六十五周年記念事業会計予算案に関する件
- 一、その他

■総会講演会

(於 北海道神社庁)

演 題 『神青協会長を経験して』
講 師 神道青年全国協議会会長

大野清徳 様

○出席者 六十七名

■懇親会

神青協会長大野清徳君慰労会

(於 札幌パークホテル)

○出席者 八十名

四月十日

■神青協第二回渉外委員会

(於 神社本庁)

狩野監事

四月二十二日

■神青協第一回役員会

(於 神社本庁)

伊部会長・狩野監事・前田理事・大野前参与

■神青協新旧役員合同懇親会

(於 神社本庁)

伊部会長・前田理事・狩野監事・大野前参与

■北海道出身神職・学生との懇親会

(於 炬ばた情緒かつこ)

伊部会長・三橋副会長・三橋事務局長・山口監事

四月二十三日

■神青協第六十五回定例総会

(於 神社本庁)

伊部会長・三橋副会長・三橋事務局長・村井理事・前田理事・山口監事・狩野監事・大野前参与・月館会員

五月十四日

■神青協第二回役員会

(於 神社本庁)

伊部会長・狩野監事

■神青協役員研修会

伊部会長・狩野監事

五月十六日

■神青協第一回事業委員会

(於 亀戸神社)

勝沼理事

五月二十一日

■道神青協役員 北海道神宮正式参拝

(於 北海道神宮)

■道神青協第二回役員会

(於 北海道神社庁)

伊部会長・二橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局長・三橋事務局長次長・北方理事・常磐井典理事・松崎理事・武田理事・井上理事・芦原理事・瀧川理事・常磐井榮理事・村井理事・中島英理事・手塚理事・小島理事・菊池理事・前田理事・勝沼理事・中島徹理事・山口監事・狩野監事・中村実行委員長

■新旧役員合同懇親会

(於 北海しゃぶしゃぶ)

伊部会長・三橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局長・三橋事務局長次長・北方理事・松崎理事・武田理事・井上理事・芦原理事・瀧川理事・村井理事・中島英理事・手塚理事・小島理事・菊池理事・前田理事・中島徹理事・山口監事・狩野監事・中村実行委員長・長尾前理事

五月二十九日、三十一日

■神青協渉外委員会波照間視察

(於 波照間)

沖繩県神道青年会との懇親会

狩野監事

五月五日

■北海道護國神社慰霊大祭参列

(於 北海道護國神社)

中島副会長

六月十日

■北海道選挙対策連絡会

(於 北海道神社庁)

三橋副会長・三橋事務局長・北方理事・常磐井典理事・松崎理事・井上理事・芦原理事・村井理事・勝沼理事・中島徹理事・山口監事・菊池重会員・山本貴会員

六月十二日

■神青協役員就任報告参拝

(於 神宮)

伊部会長・狩野監事・村井理事・勝沼理事

六月十三日

■神青協役員就任報告参拝

(於 熱田神宮)

伊部会長・狩野監事・村井理事・勝沼理事

六月十三日

■神青協第三回役員会

(於 熱田神宮会館)

伊部会長・狩野監事

六月十三日

■神青協第二回事業委員会

(於 熱田神宮会館)

伊部会長・狩野監事

勝沼理事

■神青協第一回還宮委員会

(於 熱田神宮会館)

村井理事

六月二十五日

■道神青協第三回役員会(於 北海道神社庁)

伊部会長・三橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局次長・三橋事務局次長・北方理事・松崎理事・武田理事・井上理事・芦原理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・小島理事・勝沼理事・中島微理事・山口監事・中村実行委員長

六月二十六日

■神青協第三回渉外委員会(於 神社本庁)

狩野監事

七月二日

■神青協金華山黄金山神社復興支援活動

(於 金華山黄金山神社)

村井理事・松崎理事・阿部会員・鳥居会員

七月八日

■神青協第四回役員会

(於 神社本庁)

伊部会長・狩野監事

七月十七日

■神青協第四回渉外委員会(於 神社本庁)

狩野監事

七月二十三日

■道神青協第四回役員会(於 北海道神社庁)

伊部会長・三橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局次長・三橋事務局次長・北方理事・常磐井典理事・武田理事・井上理事・芦原理事・瀧川理事・常磐井榮理事・村井理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・小島理事・勝沼理事・中島微理事・山口監事・狩野監事

九月二日

■神青協第三回還宮委員会(於 神宮司庁)

村井理事

九月四日

■神青協福島県双葉郡浪江町本務神社復興支援活動

(於 福島県浪江町)

九月十一日

■神青協第六回役員会

(於 石垣島ホテルミヤヒラ)

伊部会長・狩野監事

十月二十三日

■道神青協第七回役員会

(於 北方四島交流センター 二ホロ)

前田理事・月館会員

九月二十四日

■第五回事業委員会

勝沼理事

十月七日

■第一回中央研修会実行委員会

(於 彌彦神社)

伊部会長・三橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局次長・三橋事務局次長・北方理事・武田理事・井上理事・芦原理事・村井理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・前田理事・勝沼理事・中島微理事・山口監事・中村実行委員長・川会員・奥田会員・内田会員

十月八日

■道神青協第六回役員会

(於 青少年会館コンパス)

伊部会長・三橋副会長・丸井副会長・中島副会長・三橋事務局次長・三橋事務局次長・北方理事・常磐井典理事・武田理事・井上理事・芦原理事・瀧川理事・常磐井榮理事・村井理事・中島大理事・中島英理事・手塚理事・小島理事・前田理事・勝沼理事・中島微理事・山口監事

十月十日

■道神青協親睦スポーツ大会

(於 青少年会館コンパス)

参加者 五十九名

参加者 五十九名

十月十一日

■神青協創立六十五周年奉告祭(於 波照間)

伊部会長・狩野監事・村井理事・鎌田会員

十月十一日

■神青協第六回還宮委員会(於 神宮司庁)

村井理事

十月三十日

■神青協第六回事業委員会(於 神社本庁)

勝沼理事

十月三十日

■神青協第六回事業委員会(於 神社本庁)

勝沼理事

十月三十日

■神青協第六回事業委員会(於 神社本庁)

勝沼理事

十月三十日

十月三十日

十月三十日

十月三十日

十月三十日

<http://www.dosimsei.jp/>

北海道神道青年協議会
公式ホームページ
<http://www.doshinsei>

平成二十五年 協賛神社一覽

【札幌】北海道神宮・豊平神社・

札幌諏訪神社・札幌村神社・彌

彦神社・信濃神社・札幌護国神

社・篠路神社・琴似神社・発寒

神社・江南神社・新琴似神社・

手稲神社・西野神社・相馬神

社・厚別神社・白石神社・廣島

神社・江別神社・野幌神社・錦

山天満宮・石狩八幡神社・当別

神社・厚田神社・豊栄神社・千

歳神社・上手稲神社・烈々布神

社・水天宮・西岡八幡宮・新川

皇大神社・石山神社・札幌祖霊

神社・南線神社・澄丘神社・豊

幌神社

【道南】函館八幡宮・亀田八幡

宮・湯倉神社・船魂神社・三社

神社・福島大神宮・三嶋神社・

尻岸内八幡神社・鹿部稲荷神

社・八幡神社・厳島神社・七重

浜海津見神社・一本栗地主神

社・砂原稲荷神社・意富比神

社・上磯八幡宮・雷公神社

【釧路】釧路神道青年会

【後志】住吉神社・龍宮神社・

水天宮・天満宮・潮見ヶ岡神

社・豊足神社・稲荷神社・小樽

稲荷神社・余市神社・仁木神

社・琴平神社・美國神社・泊稲

荷神社・岩内神社・小澤神社・

俱知安神社・京極八幡神社・喜

茂別神社・狩太神社・八幡神

社・大島神社・壽都神社

【空知】夕張神社・岩見沢神社・

空知神社・南幌神社・市来知神

社・滝川神社・空知沿岸交通神

社・江部乙神社・赤平神社・出

雲神社・由仁神社・長沼神社・

樺戸神社・新十津川神社・芽生

神社・秩父神社・大國神社・雨

竜神社・沼田神社

【上川】鷹栖神社・旭川神社・

上川神社・東神楽神社・神居神

社・雨粉神社・永山神社・當麻

神社・比布神社・大上川神社・

東川神社・美瑛神社・富良野神

社・山部神社・和寒神社・剣淵

神社・士別神社・風連神社・名

寄神社・下川神社・美深神社・

中川神社・北海道護国神社

【留萌】留萌神社・厳島神社・

苦前神社・羽幌神社・厳島神

社・遠別神社・幌延神社

【宗谷】宗谷青年神職会

【網走】網走神社・北見神社・

女満別神社・美幌神社・津別神

社・斜里神社・清里神社・小清

水神社・端野神社・訓子府神

社・置戸神社・留辺蘂神社・常

呂神社・上常呂神社・相内神社

【紋別】遠軽神社・厳島神社・

滝上神社・興部神社

【胆振】室蘭八幡宮・中嶋神社・

本輪西八幡神社・樽前山神社・

恵比須神社・伊達神社・壮瞥神

社・稲荷神社・豊浦神社・刈田

神社・白老八幡神社・追分八幡

神社・早来神社・厚真神社・鵠

川神社

【日高】日高青年神職会

【十勝】帯廣神社・大正神社・

川西神社・芽室神社・御影神

社・清水神社・新得神社・鹿追

神社・士幌神社・上士幌神社・

音更神社・札内神社・池田神

社・陸別神社・本別神社・足寄

神社・浦幌神社・十勝神社・大

樹神社・茂岩神社・幕別神社

【釧路】釧路管内神社青年神職

会

【根室】根室神道青年会

編集後記

先ずは道神青協通信五十九号
 発行にあたり、社務多忙にも拘
 らず、また、発行までに時間か
 ない中、ご寄稿戴きました役員
 ・会員の皆様には厚く御礼申し上
 げます。

道神青協主管での神青協中央
 研修会に際し、全国より多数の
 会員の参加がありがとうござい
 ました。

伊部体制もいよいよ二年目に
 突入します。中央研修会の終了
 も束の間、平成二十六年には
 道神青協六十五周年を控え、会
 員の皆様・関係各位のご支援と
 ご協力の程、宜しくお願い致し
 ます。
 (後志 武田)

題字『道神青』について

本通信は、平成四年二月一
 日創刊に当たり、当時の中野
 尹亮北海道神社庁々長に御揮
 毫戴いたものです。

北海道神道青年協議会事務局

豊平神社社務所内

電話 〇一一八一一一〇四九

FAX 〇一一八一一四四二四

E-Mail info@doshinsei.jp